

2025年度 智学館中等教育学校自己評価表

目指す学校像	人間の尊厳を大切にし、世界で活躍できる人材を育てる		
2025年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>国語・数学・英語の授業は習熟度別にクラス編成し、それぞれの生徒の学力に見合った最適な授業を展開している。習熟度別編成は、学期毎に、定期考査や模擬試験により再編成し、生徒一人ひとりの学力状況を意識した個別最適な指導を実施した。さらに、これからの生徒達に必要な問題解決能力・論理的思考力を計ることができる「AiGrow」を導入し活用している。</p> <p>SDGsの理念に立脚する探究学習では、問題発見・解決能力をはじめとして、論理的思考力・創造的思考力、情報収集・整理・分析技法などの非認知的能力向上に取り組んでいる。</p> <p>4年次生は水戸ユネスコ協会の指導を仰ぎ梅染め商品開発に取り組み、5年次生は、各自が関心のある分野に関連する外部コンテスト・コンクールへ参加した。そして、年度末には生徒全員が探究の成果を発表する探究学習発表会を実施した。全教員が研修会に参加した。参加平均回数は昨年度を上回った。様々な指導法や知識を習得することで指導力を向上させた。その成果を活かし、AI活用スキルを高めるために校内で「ICT・AIに関する教員研修」を実施した。校務や授業のDX化を進めている。昨年度から海外留学生の受入れを行った。7月末までの7か月間はイタリアからの留学生を、4月から6月末までの3か月間はオーストラリアからの留学生を、そして9月からはスイスとドイツからの留学生を受け入れるなど今年度は計4名の留学生の受入れを行った。また、常磐大学への留学生7名が、7月と11月に来校し、七夕や剣道を通して日本の伝統文化を学ぶとともに自国文化の紹介を行った。留学生との交流を図りながら異文化体験を行った。</p>	<p>教育研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の学力推移の分析を踏まえ、個別最適な学習指導による学力向上と希望進路の実現 ・オンライン授業を活用し、生徒一人ひとりの学びの保証の継続 ・新学習指導要領における、入試対策の研究と確立 ・探究学習・ICT教育の充実を図り、論理的思考力や国際的指標に基づいた読解力を育成 ・教職員一人ひとりが自分の仕事におけるスキルを高め、多くのことに挑戦する ・生徒のやる気や潜在能力を引き出させる、工夫や努力に尽力する ・教職員全員で協力し助け合い、分担して業務にあたる ・教員の校外研修への参加の促進 	A
	<p>生徒支援(人間性の向上等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが充実した学校生活を送れるよう、各種行事等の工夫、検討、見直し ・生徒一人ひとりがやる気と自信を身につけ、成長を実感できるよう支援する ・各種ボランティア活動に積極的に参加するよう支援する ・挨拶がしっかりできるよう全教職員で取り組む ・公共の場でのマナーを守ることの大切さを生徒に理解させる 	A
	<p>地域連携・国際教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天体観測会の実施(募集範囲の拡張) ・ユネスコ協会との連携 ・海外留学生の受入 	A
	<p>広報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動をSNSなどで幅広く発信する 	A
	<p>閉校に向けての整理及び準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開校以来の資料等をデジタルデータ化し、整理保存に取り組む ・同窓会との連携を構築し、3年後の準備を進める 	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
学年	基本的学習習慣の確立	期末考査、模試の事前指導・事後指導を徹底し、家庭学習を定着させる。	B	A 進路や自己実現と学習を関連付け立体的に意識させ、主体的に学ぶ姿勢を持たせる。 手帳を活用し自己分析をさせるとともに見通しを立てて生活する習慣を定着させる。 資料や進路サポートを活用、さらに教科担当と積極的に面談をして指導する。 進路希望実現の為に必要な情報の収集の仕方を指導し、さらなる進路意識の向上を図る。 地域のイベントやボランティア・部活動への積極的な参加を促し、視野を広げる。 定期的な声掛け・面談と観察を行う。 PBLを中心に事前・事後学習をより計画的に実施する。 生徒の活動意欲を高め、地域のイベントやボランティア・部活動への積極的な参加を促す。 HRを通して、ふり返りの機会を作る。面談の機会を増やしたり、保護者との連携を密にする。 有効な活用法の指導や定期的な確認を行う。 異文化の違いを否定せず、面白い「寛容さ」を持つ。 自分の特技が誰の役に立つかを考え、現場のニーズを汲み取る想像力を持つ。 早い段階からより一層進路意識を高め、切磋琢磨できるよう相互に協力していく。 大学訪問や進路情報誌等から情報を集め、自ら行動を起こすように促す。HRを利用して、調べる機会を増やす。 集団の一員としての自分の役割と、自己の目標実現への取組とを区別させる。	
		手帳を活用し、規則正しい生活を徹底させる。	B		
	将来像の確立と進路選択	自己を知り、文理選択を見据えた進路指導を充実させる。	A		
		講演会への参加や資料の熟読を通じ、進路意識の向上と具体化を図る。	B		
	人間関係の確立	学校行事に留まらず、地域と関わる機会を設け、コミュニケーション能力と協調性の向上を図る。	A		
		心身の健康に気を配り、良好な対人関係を構築させる。	A		
	社会性の育成	課題解決の為に、互いの意見や価値観を尊重させ、自ら考えて行動させる。	A		
		生徒会活動や部活動等で活躍する機会を増やし、リーダーシップの育成を図る。	A		
	5年次	基本的生活習慣の涵養	自分自身を振り返り、自立心を育成する。		A
			スコラ手帳を活用し、規則正しい生活を徹底させる。		C
		周囲との協力的態度の育成	国際的な視野を養い、積極的に国際交流を行う。		A
			地域と関わる機会を設け、ボランティア活動にも積極的に参加する(クラス参加率70%)。		A
		学習習慣の確立と進路への展望	定期試験・模試の事前指導・事後指導を徹底し、家庭学習を定着させる。		B
			面談や進路講演会を通して、次年度の進路への意識を高める。		A
社会的存在としての自己の確立		卒業後の進路を踏まえ、社会の一員としての自覚を意識させる。	A		

6年次	基本的生活・学習習慣の確立	手帳を活用し、計画的・継続的な学習を意識させる。	B	B	手帳の活用を定着させ、受験期後半も自律的に学習計画を修正・実行できる高度な自己管理能力の向上を図る。
		生活習慣の見直し・改善を指導する。	B		受験によるストレスや疲労を自己管理し、入試本番まで万全の心身状態を維持できる生活習慣の確立が課題である。
	目的意識を持った進路の実現	将来の職業や生徒の希望に沿った進路指導を行う。 適宜面談を実施し、フォローアップに努める。	B		将来像の具体化は進んだため、今後は志望理由書の作成や面接指導など、実践的な進路実現に向けた支援を深める。
		生徒の志望する大学や学部・学科に応じた適切な受験指導を行う。 年次のみならず、各教科との連携を図り生徒の学習支援に努める。	A		志望校の出題傾向に合わせた個別指導を強化し、教科間の連携をより密にして直前期の確実な学力伸長をサポートする。
	社会を意識した自己の確立	集団における自らの役割を理解し、リーダーシップと協調性を育成する。	B		これまでの経験を活かし、多様な進路状況のクラス内でも互いを尊重し、最後まで協力し高め合える集団を維持する。
		他者の意見を尊重し、自らの意見を堂々と述べられる態度を養う。	B		面接試験や大学での学びを見据え、他者と対話・協働しながら論理的かつ説得力を持って自らの意見を発信する力を高める。
		最上級生としての自覚を持たせ、自律した態度を身につけさせる。	B		最上級生としての自覚をさらに促し、卒業後の社会・大学生活でも通用する、教員の指示に依存しない完全な自律を目指す。
		自分で考え、率先して行動できる積極性・自発性を伸長する。	A		高い積極性を維持しつつ、自身の進路だけでなく、周囲や社会の課題に対しても率先して行動できる広い視野を育む。

校務分掌	教務	6年間を見通した教育の確立	シラバス・学習指導計画の見直しを継続する。	A	B 生徒たちのニーズに柔軟に対応し、希望進路を実現できるよういっそう手厚い支援を行う。 現行学習指導要領の理念や目標を着実に実践しつつ、次期学習指導要領の情報収集を行い、可能な部分の先取りをする。 各学期のアンケートや毎授業のふり返りを通じてメタ認知を深め、学びを自己調整できるよう支援する。 生徒たちの多様な特性に対応しつつ、生徒たち自身も個別最適な学びを模索できるよう声掛けを行う。 生徒自身が学び方や進め方を自己調整できるような授業プランを立てられるよう、職員研修を行う。 「個別最適な学び」や「単元内自由進度学習」の理論を研究し実践できるよう研修を重ねる。 探究スパイラルをあらゆる教科・科目その他の活動に応用し、何事も探究的に取り組めるよう支援する。 梅染めの研究を始めとして、地域とのつながりを重視した活動を継続する。 教科書や教科の枠を越えた学びを実現するツールとしてCBやクラウドがあることを意識し、活用させる。 実社会において避けることのできない生成AIを実践的に活用し、その利点や弱点を総合的に理解する。	
			新学習指導要領に基づき、各年次の学習内容の有機的連携を図る。	A		
		学力向上の追求	4学期制を活かした短周期での評定を学習意欲につなげる。	B		
			習熟度別授業、放課後・夏季ゼミ等を活用して生徒のニーズに応える。	A		
		授業力の向上	全生徒対象授業アンケートや研究授業を通じて授業のふり返り・改善を行う。	A		
			生徒たちが各自の学びに必要なことを自ら考えて決定し、実践できるよう支援する。	B		
		探究学習の充実	「智学館流探究スパイラル」に基づく探究学習を短周期で繰り返し実践する。	A		
			SDGs、ユネスコスクールの理念を活かした探究学習を実践する。	A		
		ICT教育の推進	授業内外におけるChromebookの活用機会を増やす。	A		
			生徒・教職員が一緒に生成AIその他アプリの望ましい活用法を実践的に探る。	A		
		進路	6年間を見通したキャリア教育プランの確立	労働体験を通して働くことの尊さと意義を考えさせ、望ましい勤労観を身に付けさせる。		C
				生徒の興味・関心や資質・適性を検討し、生徒の将来を見据えた進路を提案する。		A
			学習活動の支援	定期的に模擬試験を実施し、年次や教科担当にデータを提供して、学習指導を行う。		B
				ゼミや個別指導で生徒の学力向上に努め、学習ガイダンス等を通して学習意欲の向上を図る。		A
進路情報の提供	各年次の生徒や保護者に向けて、進路に関する情報提供を積極的に行う。		B			
	各年次に応じた講演会や説明会を開催し、進学に対する意識を啓発していく。		A			
進学希望者への支援	各大学関係者との結びつきを強め、指定校推薦枠の維持・確保に努める。		A			
	総合型選抜・学校推薦型選抜等、多様化する大学入試に対応した受験指導を行う。		A			
校務分掌	進路				B 職業体験の実施し、働くことの意義とやりがいを感じさせる。 「書いて考える進路」「進路サポート」「適性・適職診断」の活用し、自分自身の適性を考えさせる。 FINE SYSTEMやCompass、k-naviを活用し、生徒への学習指導や助言を行う。 7限ゼミ・夏季ゼミ・冬季ゼミの開講。学習ガイダンス、受験報告会などの開催。 「ForgeAhead」の特集企画について協議し、紙面の充実を図る。 小論文講座や進路講演会を開催するにあたり、担当者や講師と綿密に打合せを行う。 教員向け大学説明会(入試説明会)への参加し、入試情報の入手に努める。 総合型選抜・学校推薦型選抜受験者に向けて、手厚い面接指導や小論文指導を行う。	

生徒	基本的な生活習慣の確立とマナーや振る舞いの向上	校内のみならず、校外においてもさわやかな挨拶ができるようにしていく	A	A	挨拶の励行を継続させていく。
		集会や式典における自己指導力を継続していく	A		教員による号令統率などを控え、生徒の自主性を涵養する。
		スマホ・SNSの校内・校外での適切な使用を促す	B		集会等の機会に繰り返し注意喚起を行う。
		スマホ・SNSについて、外部講師からの助言を通して新たな気づきを持たせる	A		引き続き外部講師による講演会・研修会を実施する。
		人権教育や消費者教育を通して社会との関わりを意識させる	A		引き続き外部講師による講演会・研修会を実施する。
		学校行事などを通して公共交通機関での安全かつ適切な振る舞いを意識させる	A		自分で考えて行動できるように促していく。
	交通安全への理解と適切な行動力の向上	自転車通行路の適切な利用と運転マナーの向上	A		集会等を通して自転車の新制度の都度確認。走行時のマナーの向上に努める。
		交通安全教室を通して、自己を客観視できる視野の育成	A		引き続き外部講師による講演会・研修会を実施する。
	生徒指導における教員の資質向上	教員の問題解決力と生徒指導への理解を深める 研修会への積極的な参加	A		引き続き、年次教員によるトラブルの防止や解決力の向上を図る。
特活	円滑な学校行事の運営	智学館フェスティバルの実施 年次減少に対応した学校行事の運営	A	A	生徒数減少に対応して工夫を施す。
	委員会活動における生徒の自主的活動の支援	生徒の主体的取り組みを取り入れた活動の支援 各委員会における持続可能な活動の模索	A		委員会の再編を行い、持続可能な委員会活動を模索する。
	部活動の活性化	部活動やクラブ活動の活性化	A		練習計画書による部活動の把握。
	ボランティア活動の支援	地域のボランティア活動への積極参加の支援	B		積極的にボランティア活動の周知を行う。
	生徒会活動の自主的活動の支援	生徒会活動の自主的活動への支援 インターネットツールを活用した生徒会活動の運営	A		生徒会Instagramの積極的な活用を奨励する。
		生徒総会を中心とした学校組織の仕組み作り	A		生徒総会の活性化を促す。
	HRの活動計画の深化	1年間を通じたHR運営方法の確立	B		人間育成・リーダー教育のためのHR計画。
教員間の情報共有と主任、担任、副担任の連携		A	計画・反省を中心とした前年度の見直し。		

保健安全	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保	学校保健計画に基づき、諸検査・安全点検を実施する	A	A	諸検査、点検の実施を継続する。
		避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る	A		教務との連携を密にし、年に2回の実施を継続する。
	生徒の健康課題を把握と健康教育の充実	学校保健計画に基づき、健康診断を実施し、担任や保護者と連携して対応する	A		保護者との連携を密にし、健康教育の充実を図る。
		保健だよりの発行や保健委員生徒の校内放送、講演会を通じて、生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る	A		毎月の保健だよりの発行を継続し、講演会の充実を図る。
		保健室の円滑な運営・管理に努める	A		保健室登校や利用について個々に対応する。
		感染症の流行の防止に努める。手洗い・うがいの徹底や環境を整え、感染症の蔓延を防ぐ	B		保健委員会を十分に活用し、生徒の予防意識を高める。
	心の問題の早期発見・対応	カウンセリングにおいて、スクールカウンセラーと担任間の連絡調整を支援する	A		カウンセラーと担任間の円滑な連絡調整を継続する。
		メンタルヘルスやアレルギー疾患などの現代的な課題も含め健康課題について適切な指導を行う	A		講演会やアンケートによって課題を把握し、適切な対応をしていく。
	心身共に健康な生活送るための「食育」に関する意識啓発	食に関して関心を持てる環境づくりに努め、給食業者の協力を得て、「食」について考える	C		情報共有を密にし連携を図る。
		「食事」「睡眠」「運動」の健康三原則を意識させる機会を設ける	A		保健だよりのだけでなく保健委員会でも啓発活動を行う。

教科	国語	基礎的な学力の定着	日々の予習・復習等の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	漢字・語句、古文単語の小テストの予定を示し、事前の家庭学習を促す。
			習熟度別授業を通して、一人ひとりの学力に応じた適切な学習指導を行う。	A		個々の生徒の学習進度に応じた学習指導の充実させ、全体の底上げを図る。
		語彙力・表現力の向上	作文指導や小論文指導を通して、諸問題に対する独自の見方や考え方を養う。	B		時事問題を積極的に扱い、自分なりの見方・考え方を発表させる。
			各年次に適した課題設定・添削指導を行うことで、文章表現力を向上させる。	B		「書いて考える進路」の原稿を郵送する前に、下書きを提出させて添削指導を行う。
		読解力・論理力・思考力の育成	文書を正確に読み取り、内容や論旨を的確に把握する力を養成する。	A		意見文や論説文を読み、正確な読み取りの力を身に付けさせるとともに、読みの可能性を模索させる。
			ディスカッションやディベート、プレゼンテーションを通して、批判的思考力や論理的な思考力を養成する。	A		相互に意見を出し合い、論理的・批判的思考に基づいた議論を行う。
		鋭敏な言語感覚と芸術的感性の錬磨	文学的文章から、登場人物の境遇や心情、人間関係や時代背景などを読み取り、物語の世界をイメージする力を養う。	B		文学作品や映像作品の鑑賞を通して、登場人物の心情や思いを読み取る力を育成する。
			詩・短歌・俳句に親しみ、鑑賞および創作を通して、言語感覚を磨く。	B		詩や短歌、俳句を味わい、韻文のリズムやレトリックを楽しむ。
	数学	基礎学力の定着	定期的な課題によって、予習・復習の学習習慣を身に付けさせる。	B	B	定期課題で予習・復習の習慣化を図りつつ、次年度は未提出者への個別アプローチを強化し、学力層の底上げを目指す。
			定期的・計画的な小テスト・単元テストによって学力の定着を確認する。	A		小テスト・単元テストの定期実施により、着実な学力定着を図る。次年度も現行の取り組みを継続し、計画的な課題作成を行う。
		個に応じた学習指導の充実	習熟度別授業や放課後ゼミにより個人差に配慮した指導を行う。	B		習熟度別指導で個別に配慮しつつ、「指示待ち」からの脱却を目指す。受動的な学習を脱し、一人で取り組める学習習慣の育成と、そのための適切な課題提供を重点的に行う。
			生徒同士で議論・発表する機会を増やし、考える力や表現する力を養う。	C		議論・発表による思考力・表現力の育成。実施の継続性に課題あり。次年度は「毎時の定着」を目標に、短時間でも発表できる仕組み作りを強化する。
		教員の教科指導の向上	教科内で、互いの授業方法について相談や意見交換を密に行う。	A		教科内での授業相談・意見交換の定着。本年度の良好な連携状況を維持し、次年度も継続して指導法の最適化に向けた協議を密に行う。
			様々な研修に積極的に参加し、その情報や成果を教科内で共有する。	A		研修への積極参加と知見の共有。研修成果の共有を密に行い、教科全体のアップデートを図る。

地歴 公民	6年間を見据えた系統的な指導の確立	新課程における科目の研究を進め、学力向上を目的とした学習指導を行う。	A	A	後期課程における歴史総合と地理総合、各探究の繋がりを考える。
		多様な進路希望に対応できる科目選択のあり方について研究する。	A		各総合科目、探究科目についての研究を進める。
	実社会とのつながりを意識できる学習法の開発・実践	実社会の諸問題を体験的に学び考えるため、活動的な実践を積み重ねる。	A		探究学習との関連を持たせ、課題発見・解決型のフィールドワークを実施する。
		資料読解の機会を多く設け、社会的諸問題を発見させる。	A		意見や知識を要約し、共有・発表するスキル向上をめざす。
	主体的・対話的な学びを実現する指導法の工夫・改善	Chromebookを用いて、アクティブラーニング型の学びのスタイルや学習課題、発問技法について研究を深める。	B		ICTを用いた授業技法について教科内で研修を行う。
		先人との対話という点を重視し、学習課題に応じた適切な史資料等を選定する。	A		生徒に考えさせたいことや習得させたい力を踏まえ、適切な史資料を選定する。
理科	科学的・論理的思考力の深化	「観察」「仮説」「実験」「考察」のプロセスにおいて、特に仮説設定と考察の段階での思考を深める発問や個別フィードバックを強化する。	A	B	教員からの発問や個別指導を足場としつつ、今後は生徒自身が自発的に質の高い仮説を設定し、多角的な視点から深く考察する「自立的な思考力」の定着が課題である。□
		実験・観察結果に基づくレポート作成指導において、論理構成の精緻化、考察の多角的深化、適切な引用・参考文献表記の習得を徹底する。	B		論理的なレポート作成の基本は身につくため、独力での論理展開の構築と、適切な引用・参考文献の表記ルールの定着を図る。
	主体的な探究力の育成と発展	実験後の自由発見時間を質的に充実させ、生徒の自由な発想や知的好奇心に基づく主体的な探究活動を一層促進する。	B		自由発見時間の活用状況に個人差が見られるため、すべての生徒の知的好奇心を引き出し、より質の高い主体的な探究活動へ踏み出せるような動機付けと支援が求められる。
		多様な実験器具・資料の整備や、必要に応じた地域・外部機関との連携を通じて、発展的な探究活動の機会を提供する。	B		整備された実験環境や外部連携をさらに多くの生徒が活用し、単発の体験で終わらず、日々の発展的な探究活動の深化に直結させるための工夫が課題である。□
	科学的コミュニケーション能力の育成	レポート作成プロセスに相互評価を導入し、多角的な視点から自身の成果を捉え、論理的に記述・改善する力を養う。	B		相互評価の導入は進んだ。今後は表面的な感想に留まらず、科学的根拠や論理構成の妥当性を客観的に評価し合い、論理的な記述の改善に繋げるスキルの育成が必要である。□
		ICTを活用した成果発表において、科学的根拠に基づいた説得力のある構成力や効果的な質疑応答能力など、高度なプレゼンテーション能力を育成する。	A		ICTを用いた発表資料の構成力は向上しているが、予想外の質問に対しても科学的根拠に基づき的確に回答できる、実践的な質疑応答能力の向上が引き続き課題である。

英語	基礎的な英語力とコミュニケーション力の育成	4技能のバランスがとれた言語活動を実施する。	B	B	「読む」「話す」の活動を多く取り入れる。		
		知識を実践で運用できるよう、場面設定や教材はできるだけ実際的なものにする。	A		インターネット等を利用して、実際に使われる英語を素材として使うようにする。		
	基本的な学習習慣の確立	定期的な小テストを実施したり、課題を与えたりして、自学自習、家庭学習の習慣を身につけさせる。	B		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう。		
		外部資格・検定試験の受験を促し、自身の英語力向上のために目標を持って学習に取り組ませる。	A		全生徒が取り組むよう声掛けを行なう。		
	英語を用いて積極的に行動する態度の育成	幅広い話題について、情報や考えなどを整理して発表したり、話し合ったりする。	B		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする。		
		調べ学習をさせたり、補助教材を利用したりして、異文化理解を深める。	A		日本人教員が指導するクラスでも行うようにする。		
	英語を運用する機会の充実	English Dayやその他授業内外の活動を通して英語でコミュニケーションを図る機会を設ける。	A		オンライン英会話学習を通して実践的なコミュニケーションの練習をする。		
		国際交流の機会をできるだけ多く設ける。	A		留学生との交流やオンライン英会話を通して実践的なコミュニケーションの機会を設ける。		
	研修機会の充実	授業担当者がそれぞれの授業について、情報を共有し、指導の工夫や改善の参考にする。	B		他の教員の授業を積極的に見学する。		
		外部の研修会等に積極的に参加する。	C		教員一人ひとりが努力する。		
	保体	保健学習の充実と知識を活用する学習活動の取り入れ	心身の発達と心の健康について理解させる。		A	A	学んだ内容に強い興味を持たせるために、発表や話し合いの場を設ける。見る、聞く、話す、感じる、考えることでより深い理解につなげる。
			健康と環境、傷害の防止について理解させる。		A		
健康な生活と病気の予防について理解させる。			A				
ブレインストーミング、実習、ICTを活用した学習などを取り入れる。			B				
基礎体力を高め、心身の調和的発達を図る		授業及び体力テスト等への積極的参加の姿勢を育成する。	A	各種目に応じた補強運動を取り入れ、基礎体力を高めていけるよう、時期や活動などの工夫を増やす。			
		体づくり運動や持久走の授業で効果的な体力向上の実践を行う。	B				
運動を豊かに実践することができるようにすることとコミュニケーション能力の育成		運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A	ICT等を活用しながら基礎的技術の習得や知識の定着を図る。			
		基礎的な運動技能を習得させる。	B				
		ルールを理解させる。	B				
決まりを守り、互いに協力し合う態度を養う		練習や作戦、課題解決の方法の確認を話し合う機会を設ける。	C	体育・保健の両分野でコミュニケーションを取る機会を増やし、規範意識や他者を思いやる心を育成する。			
		規律ある行動をとり、マナーやルールを遵守する。	A				
		フェアプレー精神を遵守する。	A				

※評価基準

A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない